

おお大勝利

平成 27 年度山東サッカー一部報第 7 号 (6 月 15 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

県総体 日大に屈しベスト4ならず

6 月 5 日 (金) ~ 7 日 (日) 会場を酒田市・庄内町から鶴岡市小真木原運動公園に移し、県総体の第二ラウンドが行われました。**山東は 3 年ぶりのベスト 8**。昨年・一昨年は初戦敗退し憂き目を見た。今年も危ぶまれましたが、何とか初戦鶴南戦 (二回戦) に勝ち、5 日の準々決勝 (三回戦) に駒を進める。**相手は優勝候補筆頭の日大山形**。部報前号の表現を借りれば、「今年度、公式戦無敗のチームです。新チームになってから、で考えると、冬に行われた東北新人で青森山田に惜敗した一敗しかしていないとも言える。」多くの方が日大の順当勝ちを予想しているだろう。こういうときこそ「大物食いの山形東」¹の面目躍如のチャンスでしょう。

会場は一昨年選手権準々決勝山形中央戦でも使用した小真木原運動公園の陸上競技場 (内の天然芝ピッチ)。一昨年したことなんで 3 年生は覚えているでしょう。あの試合 1 対 3 で負け、「大物食い」はならなかったものの、優勝候補のチームから 1 年ムンタリが余裕のループシュートを決め、一矢報いた。当時「たまたまだろう」と思い気にも留めておりませんでした。今思えば、2 年時のムンタリの爆発的な得点ペースの萌芽が感じ取れる得点でした。4 年前²の県総体準々決勝でも、同会場にて羽黒に敗れている。それ以外はこの会場での経験がないと思いますので、ということは、今野が赴任してから (ここ 10 年) この会場にて勝ったことがないということですね。いま部報を作成していて気付きました。結構、会場との相性 (というか因縁) を気にするタイプなのですが、試合前は全く気にしていませんでした。相手チームが気にすることだらけだったからでしょうか。

平日だというのに、多数の保護者、OB・OG が応援にいらっしやる。サッカー部 **2 年フミキ** が副団長として率いる山東応援団も駆けつける。**齋藤 GK コーチ** (山東 43 回卒) と**有路トレーナー (せりかわ整骨院)**³ は仕事に都合をつけて帯同して下さる。もちろん**清野 OB 会名誉会長 (総監督) と後藤報道局長** もいらっしやる。第一ラウンドに引き続き、

¹ この表現、私自身は意識したことがなかったですが、鶴岡工業の M 浦先生から今回盛んに言われ、少し複雑な気持ちになりました。だって、過去に山形東が積み上げて来た山東の勝ちには、私にとって、予定通りの勝ちなんですから・・・。なんちゃって。いや、本当になんちゃってですね。だって、《**スキルの差をスコアの差にしない粘り強い戦い**》が山東サッカー部の DNA だとすれば、**周囲の予想を裏切る「大物食い」**がまさに山東の DNA ということですから。

² タダの代 (山東 62 回卒) が 3 年の時の県総体ですが、オーツキさんやダイゾーさんの代と呼んだ方が現役生にはわかりやすいかもしれません。

³ 第一ラウンドにて帯同して下さった志田トレーナーとともに、今年山東サッカー部の面倒を見て下さることになった方です。何と、私の前任校の北村山高校サッカー部出身なんですよ。私の山東への異動と有路さんのキタム入学は入れ違いで、私が有路さんの顧問をすることはなかったですが、芹川さん (山東 41 回卒) の一回先輩の K 関先生 (山東 40 回卒のサッカー部 OB) が監督の時、選手だったようです。

岸OB会会長も来て下さった。清野名誉会長と同期のOB**工藤先輩**もお見えになっている。あとは選手が頑張るだけ。

ピッチは、ここ最近の公式戦ではなかったことですが、**先発はすべて 2、3 年生**。すなわち 1 年生の姿なし。日大との試合はやはりフィジカル的にタフなものになるので、ボール扱いでは劣ってもぶつかり合いには長けた上級生を起用。相手の左 SH を警戒して、1 対 1 に粘りのあるサンペーを右 SB で起用。逆にいつも右で出場することの多いワタコーが左 SB。左のポジションは相手が内側から寄せてくる⁴ので左足を使うことが多くなるが、ワタコーはこの一年左足もしっかり練習してきた。ボール扱いはサッカー未経験者のようにぎこちないが、大げさな表現を使えば魂を感じる全力プレーをしてくれる。さて、山東。①日大の縦に早く、しかも休むことのない連続攻撃を最終ラインでしっかり跳ね返すことができるか。②中盤での競り合いを逃げずに激しく戦うことができるか。そして、③相手の寄せが早く余裕のない時にいかに少ないタッチで最善の選択肢が取れるか。最後に、④余裕がある時いかに丁寧に攻めることができるか。ここらへんがポイントだと思っていました。**特に、日大の寄せは早く激しいので、余裕がある時でも（恐怖心からか）焦ってしまいアバウトなプレーをしてしまいがち。ですから④が試合のポイントとなると考えておりました。**アバウトなプレーに終始すると、競り合いの強さで定評のある日大がボールを大きく跳ね返し、ボールを取めずとも攻めきってしまう⁵波状攻撃の餌食になって 70 分が終わってしまう。さあ、県総体日大戦どうなるか。

試合が始まると、やはり日大の圧力に山東陣内でのプレーが多くなる。日大の選手は、体が強いだとかジャンプ力がすごいだとか、フィジカルの問題ではなく、**セカンドボールの予測と必ず前方方向にパワーを持って競り合ってくる準備とが素晴らしい**（だから小さい選手もヘディングが強い）。対する山東も、**シャモジとタツルの CB と我らが GK サブロー**を中心に、最後の最後は日大に仕事をさせずに粘っている。CK、FK そして通常時のクロスボールとも、日大の選手はいやらしいボールを入れてくるが、山東も頑張っている。

⁴ サッカーの基本的な考えは、**攻めるときは広がって**（wide に＝横幅を広く使って、deep に＝前線が縦に引っ張って相手のラインを下げさせ、深みを取らせて）というものだし、**守る時はコンパクトに**（横に広がりすぎない、かつ、縦に広がりすぎない）というものです。コンパクトに守る理由は、選手間の距離を縮めることで選手の間（ギャップ）にパス（スルーパス）を通されることがないようにするためでもあるし、複数人がボールにチャレンジできるように（またはチャレンジしている人にすぐ加勢＝カバーリングにいけるように）するためでもある。逆に、攻めるときは、相手にそのようにコンパクトに守らせないために広がって攻めることが重要となってきます。もちろん、攻める方は広がるし守る方は固まるので、ボールがピッチのアウトサイドにある時、守る側は攻める側の内側から守ることになります（容易に相手攻撃者を内側に入れるのはゴール方向に先に行かれることを意味するため守る側からすればタブーとなります）。**左サイドの選手（左 SB、左 SH）は、自分がボールを持っている時、相手が自分の右側から（内側から）寄せてくるので、自分の左側にボールを置く（基本ボールを左足で扱う）必要があります。**サッチモさんのように、左 SB なのに右足でクネクネやるのは、よほどまい選手か、判断の誤りかのどちらかです。

⁵ すなわち、日大の選手は上記③のプレーが極めて上手だと思います。「パッと見」で日大の攻撃を判定すると、「（ボールを地面に転がさずに／取めずに）アバウトな事やってんな～」となりますが、複数人が関わりワンタッチでボールを裏に運び続ける攻め方が可能なのは、技術の裏付けあつてのことです。たとえて言うなら、相撲でしっかり四つに組みあつて闘うのも一つのやり方ですが、つっぱりつっぱりで組むことなく相手を押し出せたらそれも立派な作戦です。どうしても組み合うやり方の方を王道とみなす傾向が日本では強いのですが、突き押し相撲＝日大サッカーも立派な作戦です。柔道でたとえるなら、日大は不十分な組み手でも連続して技を仕掛けることができる選手と言っているでしょう。十分な組み手にならないと技を仕掛けられず、（一本を取る柔道だと鼻息ばかり荒いが）世界大会で負け続ける日本柔道とは対極に位置します。

前半 2、3 回「やられた」と観念しかけたシーンはありませんでしたが、日大の選手が外してくれたのとサブローのファインセーブもあり、前半スコアレス。

内容的には一方的でしたが、まずはよく守った前半。攻撃では、2 年ボランチのシュンが焦りからか、前向きにボールを持って複数の選択肢を見つけられる時でも出鱈目なプレーで相手にボールをプレゼントすることが多かった。チームの中心のボランチがこんなパフォーマンスではダメ。SH も FW も裏でボールを要求するばかりで、パサーに難しいプレーを要求し続けた⁶。裏へのランニングも悪くはないが、横や斜めの足元で受けてくれる選手も必要（縦パスでも足元での要求は必要）。この点の改善を促し後半へ。

後半も日大ペースですが、立ち上がりの時間を過ぎると、**何か前半と違うまったくムード**が流れる。日大のペースが落ちてきたというべきか、山東が守り慣れてきたというべきか。日大の DF、MF のミスが目立ち、山東がセンターサークル付近で攻防を繰り返られるようになってきた。前半は DF がペナルティエリアに釘づけだったことからすると、試合の潮目が変わってきたように感じる。「(試合内容が最悪な時には失点せずに) こういうちょっと良くなってきたところで失点するパターンはサッカーで多いから、注意しないとイケないな」などとベンチで考えていた後半 10 分過ぎ、**前半はバタバタするだけだったシュンが良い形から奪ったボールを受け前向きにドリブル開始、シュン (の左側近く) を追い越す動きをしたもう一人のボランチカツミや右方向にいた FW タイチをおとりに、彼が選択したパスは大裏 (左サイド) で待っているムンタリのところ**。シュンはムンタリの方に体を向けずに足だけ (多分右足インフロント) で彼にパスしたため、日大の選手も裏を搔かれる。**ムンタリ**に初めてフリーでボールが渡る。しかも、ムンタリがボールを受けたところはそんなにアウトサイドではなく、ゴールやや左。右利きの選手がシュートを打ちやすい絶好のポジションと言っている。否が応にも期待は高まりましたが、望外のチャンスにムンタリも硬くなったか、チャンスをもものにできず。すると、今度は一転、深く攻め込まれ危ないシーンを作られる。ゴール付近にボールが運ばれ、ボールを持っている選手は 2 年時から (1 年時も?) 試合に出ていた要警戒のトップ下。しかし、対応するのは対人の強い**シャモジ**。大丈夫じゃないかと楽観視していた矢先、そのトップ下の選手が右側に (シャモジの左側に) 抜きにかかり、ゴール右側 (山東からするとゴール左側) の角度のないところに行ったと思ったら、そこで蹴られたセンターリング? がシャモジに当たり (というかかすり)、方向が変わり、角度のないところからニアサイド上にボールが飛び、**アンラッキーな形から失点を喫す。後半 15 分くらいの失点**。時間も時間だし、得点を取りに行かないといけないと思い、攻守に力強いタツルを CB からボランチに上げる。タツルなら、この位置から一人でボールを持って行くこともできる。などと、攻撃のことばかり考えていたら、失点の直後、またしても日大のトップ下の選手にドリブルシュートを決められ、すぐに 0 対 2 へ。タツルのポジションを上げた私の判断の誤りか。ともかく、いよいよ厳しくなってきた山東。今度は、タツルを FW に上げ、一発を期待するも、そこは日大。なかなかチャンスを作らせてくれない。逆に、DF ラインの乱れ (というか対応のまずさと予測力の不足) を突かれ、正直余計な 3 失点目を喫し、万事休す。**サッチモ**さ

⁶ 横パスやバックパスと比べ、縦パスが一番難しいパスです。縦パスの中にも出鱈目に蹴っただけのパスならぬキックがあり、それゆえ「縦パスは誰でも出来る」と思われがちですが、そうではありません。しっかり縦パスを通せる選手が良い選手ですし、縦方向で狙っている味方を見逃さないのが良い MF・DF です。もちろん、いつもいつも縦パスが成功する状況にはないので、いろんな配球で相手を攪乱しますが、その中でも狙いは縦パスなのです。

んをボランチで起用したり、**タロー**を左SBで投入し、3年生の力で何とか1点をもぎ取りにかかるも、やはり日大が一枚上手。無情のホイッスルが鳴り、山東の県総体終了。

3失点は取られすぎで、タツルをCBに留めていたら2失点はなかったかもしれない。でも、後半の後半以降に失点したら、タツルを上げることはゲームの前から決めていたこと。失点覚悟で得点を取りに行ったので、しょうがないとも言える。日大が山東より強かったのは確か。**後半は試合のポイントに考えていた④をうまく実行するシーンも見られ、チャンスも作りだした。ただ、その数はあまりにも少なかった。**本当は、③のような、余裕がない時に④に導く、すなわち寄せが厳しく余裕がないところで個のアイディア・スキルにより相手をいなしボールを落ち着かせ余裕を作り前を向いた状態を作りたかった。**(相手のミス等により) たまたま余裕がある時には、ではなく、自分たちで余裕を作り出す必要があった⁷。根本的な敗因は、そこにあったと考えています。**起用のあれこれや声掛けのあれこれではなく、そこまで導けなかったことが敗因かと。

ということで、山東の県総体が6月5日準々決勝で終わってしまいました。残りの前期リーグ戦は戦うものの、3年生にとって最後の県総体が終わってしまった。**今年の代は、攻撃ではムンタリ、守備ではタツルと、個の力で抜きんでた切り札がいて、面白いチームだと思っていました。そして、他の3年生も少ないながら脇を固めている。**ムンタリが膝の故障によって県総体直前の合流になったものの、それにより他の選手に「自分がやらなければ」という自覚を促す好機にもなった。チームの状態は上がってきている、と感じておりましたが、最終的には勝たせてやれませんでした……。

県総体は結局、山東を破った優勝候補筆頭の日大が準決勝で山形中央に負け、その山形中央が決勝で羽黒に負け、**I Hの山形県代表は羽黒**となりました。3年ぶりでしょうか。決勝戦、前半1対2で負けていた羽黒でしたが後半逆転に成功、結局3対2で優勝。**表彰式で、負けた山形中央の選手も、勝った羽黒の選手も、号泣している選手が多く、この大会に懸けた思いを感じ取ることができ、久しぶりに良い表彰式を見ることができました。**羽黒の選手は自分たちでは一度も全国大会に行っていないわけで、これまでの悔しさがうれしい涙となったのでしょうか。**羽黒高校の皆さん、I H神戸大会ではぜひ頑張ってください。**私は全国専門委員長会議に出席する役目もある関係で、応援に行かせて頂きます。**号泣していたFWの選手の爆発に期待します！！**

最後に、県総体敗れた山東3年生諸君。君たちには総仕上げの機会が待っている。**勝って引退できるチャンスがあるのは幸せではないか。**前期中間考査(テストによる部活休みは6月8日～16日まで)があったり、学校祭の準備が少しずつ始まったり、サッカーに集中できる状況にはないが、相手だって日々成長している。厳しい公式戦となろう。**部活再開後から、少しでも向上し、過去最高の姿で引退を迎えてくれ。**

保護者の皆さま、OB・OGの皆さま、3年生最後の公式戦、どうか応援よろしくお願ひします。

7月4日(土) Y1第7節 鶴岡東戦 @天童第二 15:00～

⁷ 注5に続いて柔道でたとえるなら、たまたまうまく組み合えたら一本取れるようにしておくのでは足りず、不十分な組み手でも技を仕掛け相手のバランスを崩し自分からうまく組めるようにならなければならないということです。